

部 長 富嶋 明人
研究主任 加知 加奈
部 員 数 18 名

1 研究主題

新たな価値を創出し、生活の中に生かす子ども
ー 子どもの思いや願いの実現をめざし、学び続ける授業 ー

2 はじめに

4月に各校の現状や今後の取り組みについて話し合い、昨年度から継続して上記の研究主題のもと研究を進めていくことにした。

昨年度の部員からの「実践報告を活かす場が欲しい」という意見をもとに、研究会を提案（実践計画）の回と報告（実践報告）の回に分けて研究を進めた。

提案の回には、①どのような活動や環境設定を行うことが子どもたちの思いや願いを育むか、②どのような支援を行うことが気づきの質を高め、学びを深めるかについて意見交換を行った。報告の回には、各校での実践において、①提案から取り入れたこと、②実際の子どもの様子について報告し合い、考察した。

3 研究の概要

（1）第1学年の実践～単元「はなをさかせよう」から～

ア 提案の回より

本単元では、A校の提案をもとに意見交換をし、各校の実践を組み立てた。

提案	内 容	ねらい
1	『きょうのアサガオ』の実施	- 朝の会・帰りの会で、アサガオの様子を報告する場を設ける。 - アサガオに興味をもち続け、様子のより細かい変化に気付くことができるようにする。
2	タブレットアプリでの記録	- 記録写真に残すことで、細かい変化にも気づきやすくする。 - 画力による気づきの表現の差をなくす。
3	図鑑づくり	- 気づきをつなげて構造化することで、もっと知りたいという思いを育む。 - 成果として形に残すことで、次の活動への意欲を高める。
4	クイズ大会の実施	- 自分だけの気づきを得ようとして、より細かく観察したいという意欲を高める。 - 自分の気づきを誰かに伝えることの楽しさを感じる。

イ 報告の回より

B校では、提案の回を受け、提案1「きょうのアサガオ」の内容を取り入れ、実践を行った(写真1)。アサガオの毎日の小さな変化に気付く子どもの姿やその成長に関心をもち続ける様子が見られた。

また、朝の会で「きょうのアサガオ」の活動を行うことで、子どもの気付きを基に、その日の授業での観察に出かけることができ(写真2)、子どもの「見たい」「伝えたい」という思いを育むことにもつながった。



写真1



写真2

(2) 第2学年の実践～単位「うごくうごくわたしのおもちゃ」から～

ア 提案の回より

本単位では、C校の提案をもとに意見交換をし、各校の実践を組み立てた。

提案	内 容	ねらい
1	簡単なおもちゃ作りを通した試行錯誤(練習)の場の設定	作る→動き方を観察する→よりよく動くための手段を考察する→もう一度作る、という流れを全員に経験させることで、以降の活動に生かすことができるようにする。
2	タブレットアプリでの動画記録	- 動きの観察をしやすくすることで、対象物にじっくり関わるようにする。 - 成果と課題を明確に記録することで、挑戦することへの意欲を育む。
3	「材料コーナー」の設置	- 各自が必要なものだけを用意するのではなく、使えそうな材料をみんなで集めた「材料コーナー」を設けることで、試したいという思いを妨げることなく、試行錯誤をしやすくする。 - 家庭の力による学びの差をなくす。
4	グループの取り入れ方	子どもたちの興味・関心を基にグループ分けをすることで、思いや願いを中心にした活動になるようにする。

イ 報告の回より

D校では、提案の回を受け、提案1「簡単なおもちゃ作りを通した試行錯誤（練習）の場の設定」の内容を取り入れ、簡単なおもちゃ作りとして、導入に段ボールごま作りを行った。段ボールごまは、どの子でも簡単に、短時間のうちに何度でも作り直しができる。子どもたちは、友達とこまの動きを比べたり、動き方を撮影した動画を見たりしながら、よりよいおもちゃにしようと試行錯誤し、何度も作り直した。（写真3）。

その後の「自分のおもちゃ作り」でも、導入での経験を生かして、課題を明確にし、試行錯誤しながら、よりよいおもちゃにしようとする姿が見られた。

また、提案4の吟味により、子どもたちが作りたいおもちゃごとにグループを作ったことで、子ども同士が自然と話し合い、役割を分担して活動することができた（写真4）。



写真3



写真4

4 成果と課題

子どもが学び続けるためには、子どもたちの中から思いや願いが生まれることが必要である。本研究では、報告する場を設けることや、何度でも挑戦できる環境を整えることを通して、継続して対象物に向き合う意欲を高め、自分の中から生まれた思いや願いの実現に向かって努力し続ける子どもたちを支援した。その結果、対象物の小さな変化に気付くなど、気付きの質を高めることや、対象物をよりよくしたいという、子どもの新たな思いや願いを育むことができた。

研究推進においては、研究会を提案（実践計画）の回と報告（実践報告）の回に分けて研究を進めることで、実践を前に多くの知見を得て計画を練り、各校で実施することができた。報告においても、共通の視点で実践を吟味することができた。

課題として、長期に渡る活動の中で、対象物に関わる意欲をもち続けることが低学年の子どもにとって困難であるとは、言われているところである。対話的な学習の場を効果的に設けながら、活動を通して、子どもたちの思いや願いが生まれ続けるためにどのような支援ができるかを、さらに追究していきたい。